

# 宝生会 月並能

平成三十年六月十日(日)  
午後二時始

## 演目の解説

### 能「柏崎」(かしわざき)

越後国柏崎で夫の留守を守る妻のもとに、夫と共に鎌倉にいるはずの家臣小太郎が帰って来ます。小太郎は、主人柏崎殿が病死したことを伝えます。文を読んだ母は我が子の行方を尋ねて越後を出、信濃の国善光寺へ向かいます。善光寺の如来堂の内陣に辿り着いた母は僧に咎められますが、持参した夫の形見の衣と烏帽子を身に着けると夫の後生を祈り舞を舞います。偶然にも善光寺で修業していた花若と母は、僧の計らいでめでたく再会し、連れ立って柏崎へ帰って行くのでした。

### 狂言「千鳥」(ちどり)

太郎冠者は神事の祭酒を買って来るよう主人に命じられ酒屋へ行きますが、ツケがたまって居るため酒屋は売ってくれません。そこで、酒代として後から米が来るとだまし、酒を詰めてもらうことはできましたが、米が到着するまではと留められてします。冠者は一計を案じ、津島祭を見物に行った話を始め、浜辺で千鳥を伏せる真似や、祭りの流鏝馬の真似をしているうちに...

### 能「邯鄲」(かんだん)

蜀の国に住む青年盧生は、人生に悩み羊飛山に師を訪ねる途中、邯鄲の里で雨宿りをする。宿の主が不思議な枕を勧めます。粟の飯が炊ける間、横になった盧生の元に、楚国の帝の使が現れ、盧生を起し、讓位の勅を伝えます。勧められるまま都に上った盧生は、榮華の限りを尽くし、在位五十年の宴では自らも舞を舞いますが、これはすべて夢中の出来事、覚めかけた夢を宿の主に起こされ、人生の儚さを悟って帰って行きます。横たわった寢床が、起き上がると宮殿になり、夢覚めるとまた邯鄲の里に...「一炊の夢」舞台版。

14:00

## 柏崎

子方水上 嘉  
シテ金森 秀祥

ワキ工藤 和哉

大鼓 佃 良勝  
小鼓 幸 信吾

笛 寺井久八郎

後見

高橋 章  
前田 晴啓  
高橋 亘

地謡

和久莊太郎 小倉 敏克  
小倉伸二郎 小倉 保雄  
小倉健太郎 田崎 隆三  
野月 聡 東川 光夫

15:30

## 千鳥

野村 万蔵

野村万之丞  
野村 萬

16:15

## 邯鄲

子方野月 惺太  
シテ大坪喜美雄

ワキ高井 松男

大鼓 亀井 忠雄  
小鼓 鶴澤洋太郎

太鼓 桜井 幸弘  
笛 一噌 均

間能村 晶人

後見

宝生 和英  
山内 崇生  
澤田 宏司

地謡

高橋 憲正  
小林 晋也  
水戸 優  
大友 順  
朝倉 俊樹  
佐野 登

へ休憩十五分へ

終演予定 午後五時三十五分頃

◎会場 宝生能楽堂

◎入場料

S席 正面 / 8,000円 A席 正面 / 7,000円  
B席 脇正面 / 6,000円 C席 中正面 / 5,000円  
D席 自由席 / 3,000円

学生割引 全席種1,000割引 ※30歳未満の学生の方

◎チケットお申込先

宝生能楽堂 03-3811-4843 10時~17時(月曜休館)  
http://www.hosho.or.jp  
カンフェティ 0120-240-540 平日10~18時

飛	井	次 回 予 告
雲	筒	
金井 雄資	佐野 登	

平成三十年九月九日(日)  
午後二時始



文化庁文化芸術振興費補助金  
(舞台芸術創造活動活性化事業)